

しば子先生の

ミ

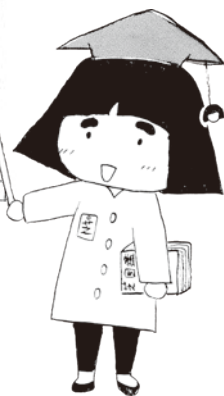
ニ

ミ

ニ

芝生教室

第117回 カタビラ4



先生：『マックワンフロアブル』の際立った安全性と特徴的な残効の長さの理由はよくわかったかしら？

生徒：はい、有効成分クミルロンの水溶性の低さがその理由でした・・・

先生：そうね・・・元気なベントグラスには全く影響が出ないけど**カタビラの発芽直後の弱い根**には生育を止める力があるという事・・・葉からの吸収はほとんどないのでこの除草剤は『**発芽前処理剤**』となるわね・・・

生徒：発芽前処理剤ということはすでに出ているカタビラには効果がないという事でしょうか？

先生：発芽前処理剤として春や秋のカタビラが発芽するシーズンの前に散布しておくことによって、3～6か月の残効があるのでカタビラの発芽シーズンをすべてカバーしてカタビラが地上に芽を出す前に地表の処理層の中ですべて枯らしてしまうことができるわ・・・

生徒：残効が長いですから**1回**の処理で春や秋の発芽シーズンすべてをカバーする能力があるんですね・・・でも出ているカタビラはやはり全然効果無しなんですよね？

先生：出ているカタビラにマックワンを撒いてもすぐには何も起こらないわ・・・

生徒：茎葉処理剤ではないから当然と言えば当然ですが・・・

先生：そう思うでしょ！・・・でもマックワンはすごいよ！・・・出ているカタビラにマックワンを散布して一か月後・・・ちょっとカタビラを指でつまんでみると結構スポッと抜けてしまうのよ・・・

生徒：ええっ？ どういうことですか？

先生：それはね・・・一か月の間に**マックワンが土壤中でカタビラの細い根・・・つまり毛根を衰退させてしまっている**という事の証なのよ・・・

生徒：そうか！マックワンはカタビラの発芽直後の細かい根をやっつけられるので、出てるカタビラの細い毛根もやっつけられるんですね！

先生：そういうこと・・・もちろん出ているカタビラの太い根までは枯らすことができないけど、カタビラの毛根を失わせることによってカタビラの水分や養分を吸収する力が減り、生育能力を相当に弱らせることができるわ・・・例えばちょっとした乾燥や暑さ、寒さなど、通常なら越えるような

環境ストレスでも簡単に枯れてしまう様になるのよ・・・

生徒：なるほど・・・結果的に出ているカタビラも徐々に減っていくわけですね！

先生：実験では発芽から3葉までのカタビラはすぐに枯死させる効果はあるわ・・・すでに出ているカタビラには毛根を失わせて徐々に衰退させていく・・・残効が長いので長期間出ているカタビラの根の生育を押さえるわ・・・もちろんベントグラスには影響がないので弱ったカタビラの間隙をベントグラスが埋めていくので結果的に裸地化することなくカタビラを減らせることができるのよ・・・

生徒：茎葉処理剤でカタビラが一気に無くなってしまったのは裸地の場所が出てくるのでグリーンとしては問題ですね・・・

先生：その通り・・・マックワンの優れたところは**新規のカタビラを抑えながら出ているカタビラも裸地化させることなく**徐々に消していくという事なのよ・・・

生徒：理想的ですね！

先生：それに茎葉処理剤はベントグラスにどうしても薬害リスクが発生してしまうし、土壌中には『**シードバンク (Seed Bank)**』と言って沢山のカタビラの種子が長期間眠っていて出ているカタビラを消してもまた次から次と下から発芽してくるの・・・

生徒：シードバンク・・・種の銀行という意味ですね・・・

先生：そうよ・・・アメリカでは**20年以上**土壌中でカタビラの種は**生き残れる**と言う研究者もいるわ・・・

生徒：それじゃあイタチごっこですね・・・

先生：そう・・・でもマックワンを春、秋二回撒けばカタビラが発芽しても地上に出てくる前に土壤中で押さえてしまうので美しいグリーンがずっと維持できるのよ・・・

生徒：しかもすでに出ているカタビラも徐々に減らせるんですね・・・

先生：そういう事ね・・・マックワンは**2002年に発売開始**して今年でちょうど**20年**経つけど、いまだかつてメーカーに薬害で芝生が枯れたという報告もなく、発売からずっと継続使用してくれているコースもたくさんあるわ・・・どこも良い結果だけど、より安全に良い結果を速やかに出すためには**使い方が重要**よ・・・じゃあ次回は**正しい使い方**をお教えしましょうね・・・

しば子先生への質問や励ましのメールはこちらへ・・・
shibako@hugh-enterprise.co.jp

《芝生教室のバックナンバーはこちらから》

